

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【春野小学校】

⑥ 次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	「読むこと」、「書くこと」、「話す、聞くこと」等の基礎的な技能の定着が次年度への課題である。その基礎的な技能の向上に向けて朝読書の充実や、図書室へ足を運ぶ機会を増やすといった日常的な活字への接触を増やしていく。また、学習(読む・書く)が苦手な児童への個に応じた指導において、補助資料の提供や記述の型(モデル)を提示する等、個別支援を充実させていく。
思考・判断・表現	問題を正確に読み取り、自分の考えを文章にまとめる力につながる「思考力・判断力・表現力」の向上が次年度への課題である。「思考力・判断力・表現力」の向上に向けて、授業の中で「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動(書くこと)」「資料や文章の組み立てを工夫して発表する活動(話すこと)」を意識的に取り入れていく。また、ICT機器を活用して「書くこと」「話すこと」等の表現する活動へのハードルを下げる工夫を授業の中で取り入れていく。

① 今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 文章の読み取りに課題がある。 過去の学年の学習内容が定着していない児童への支援が必要である。 <指導上の課題> 授業において習熟に差があり、学習内容の定着に課題がある。学習者用端末の日常的、主体的な活用の頻度に課題がある。	個別最適で協働的な学びへの授業改善をする【学力・学習状況調査(国・市 各年1回)や自校調査(単元終了毎 とりまめは12月)】 文章を読む・書く体験の充実を図る【よい授業アンケート 12月】 ICT活用による、過去の学習内容の定着【ICTタイム実施(木曜朝)】 端末使用のルールづくり・有効活用【ICTタイム実施(木曜朝)】 繰り返し学習の積み重ねを意識して安定した学力の定着を目指す。【授業後・単元後の振り返り】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 調査から「書くこと」に課題が見られた。 <指導上の課題> 自分の考えを書くことや相手の考えを読み取る活動が十分でない。何をすべきか、どこまで目指すかを児童が理解して進められるように示す必要がある。	様々な教科において、書く活動・文章を読み取る活動を意識して取り入れる。【導入・振り返りでの実施】 自分の課題を設定・選択する力をつける【導入・モデル学習】

⑤ 学力向上策の実施状況	
知識・技能	B ・個別最適で協働的な学びへの授業改善については、校内研修を活用して教員一人ひとりが児童の実態に応じた課題をもち実践を行い、全職員において情報共有することで学校全体の授業改善につながった。 ・文書を読む・書く体験の充実については、図書室のレイアウトの工夫、おすすめの本を取りやすくする環境づくりに加えて、図書に関するイベント、キャンペーンを充実させることで本に触れる児童が昨年度より増加し、文章を読む力の向上につながってきている。
思考・判断・表現	B ・各教科において授業の中で「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動(書くこと)」を意図的に取り入れた。また、学習の中で情報を取捨選択して読み取り、整理する過程においてICTを活用することで「書くこと(表現すること)」が苦手な児童も自分なりに表現する姿が見られてきている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	記憶に基づき漢字の使用は概ねできていた一方で、『あつい』を『暑い』『暑い』『厚い』などから文脈に応じて選択する問題には難しさが見られた。これは、単なる暗記ではなく、適切な語を選んで書く力が問われる場面であり、言葉を使って表現する経験の量が影響していると考えられる。 算数では、台形の識別や目盛りから分数を読み取る問題に難しさが見られた。既知の形や情報に頼って答える傾向が強く、問題の構造に立ち返って考える姿勢が十分に育っていないことがうかがえる。
思考・判断・表現	国語では多くの設問で全国平均を下回り、特に文章全体の構成を把握して要旨を捉える力や、目的に応じて文章と図表を関連付けながら必要な情報を見つけ出す力に課題が見られた。算数では、文章や図表を読み取り、それをもとに式や言葉で説明する2つの問題において、特に正答率が低かった。理科でも、問題文を正確に読み取り、題意を理解して記述する力が求められる2つの問題で課題が見られた。これらの結果から、すべての教科に共通して「文章の読解力」と「記述力」の向上が重要な課題であることが明らかとなった。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	全教科、全領域の中でも特に国語の「読むこと」、「書くこと」、「話す、聞くこと」において大きな課題が見られた。この基礎的な技能の不足が他教科に影響を及ぼしていると考えられる。読心力等を養うために、朝読書の充実や、図書室へ足を運ぶ機会を増やすといった日常的な活字への接触を増やす取組が必要であると考えられる。
思考・判断・表現	算数、社会、理科の全ての教科の「思考力・判断力・表現力」において課題が見られている。問題を正確に読み取り、自分の考えを文章にまとめる力が不足しているため活用型の問題でつまづいている状況が推察される。また、学年が上がるにつれて思考力の課題が大きくなる傾向が見られることから、基礎が定着しないまま学習内容が高度になっていくことが思考・判断・表現の課題を生み出す要因の一つと考えられる。 思考力を養うために授業の中で「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動(書くこと)」「資料や文章の組み立てを工夫して発表する活動(話すこと)」を意識的に取り入れる取組が必要であると考えられる。

③ 中間期報告		中間期見直し
評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B 文章を読む・書く体験の充実を図ることについて、図書室のレイアウトの工夫により、おすすめの本を手に取りやすくした。学習のまとめで児童から出た言葉を基に文章化する取り組みを進めている。 ICTタイムの計画的実施。タイピングの技能向上がみられ、ドリルパークやスタスタの使用にも親しんでいるが、端末使用のルールづくりは引き続き徹底していく	変更なし
思考・判断・表現	B 授業において、自分だけで文章化する前の段階として、学習内容のまとめについて、児童からでた言葉を対話を通して文章化している。読み取りについては、文章があらわす内容が何なのか、対応を明らかにしつつ学習を進めている。自分たちの疑問を対話を通して明確にし、提示された複数の課題の中から、自分の取り組みを選択する活動を行っている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)